学校評価アンケート集計結果について

向春の候、皆様にはお健やかに過ごしのこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年度の学校評価アンケートの集計結果と考察がまとまりましたので、お知らせいたします。本来ならば、ご参会いただき、ご意見を頂戴するところですが、感染状況を鑑み、紙面でのご連絡となりました。ついてはご一読いただき、ご意見を賜りたくお願い申し上げます。皆様のご意見を次年度の教育活動に生かしながら、さらに充実させ、地域・保護者の皆様とより一層の連携を図って参る所存です。

【児童・保護者・教職員アンケートの結果】 別紙参照

回答率 児童 98.3% 保護者 52.3% 教職員 91.4%

【考察】

1 高評価の項目

感染症予防のためにすることを進んで行っている。(児童97% 保護者98% 教職員97%)
困ったときに、先生は相談にのってくれる。(児童97% 保護者90% 教職員97%)

保護者、児童、教職員それぞれに、多くの項目で80%を超える良好な結果が出ました。特に、「感染症予防に努めている。」という項目で最も高い結果が出ました。子どもたちは、年間を通して、集団生活実現のために自ら継続して感染予防に努めています。それを保護者の皆様にもご理解いただいていることを大変ありがたく思っています。

合わせて高い結果が出たのは、「困ったときに、先生は相談にのってくれる。」という項目です。今年度の重点目標の一つに、「人を大切にすること」を掲げました。教職員が親身に接する姿を子どもたちが感じ取ってくれているとしたら、こんなにうれしいことはありません。しかしながら、保護者からの肯定的評価は90%にとどまり、10%の方々にとっては、「親身になってくれない」と感じている結果となりました。このことを真摯に受け止め、保護者との連携に努める必要を感じています。

授業は分かりやすい。(努めている。)	(児童95% 保護者90% 教職員97%)
いじめのない集団づくりに取り組む。	(児童94% 保護者91% 教職員97%)

今年度も、感染症予防のために、児童が「楽しい」と感じられるような体験的活動が制限されることが多くありました。そのような中でも、わかりやすい授業を心がけ、「わかると楽しい」というプラスのスパイラルを作ろうと努力を重ねた一年となりました。また、保護者の方々に授業を参観していただく機会がほとんどありませんでした。そのような中、90%の方々に教職員の取り組みを前向きに評価いただき、深く感謝申し上げます。

また、いじめのない学級・学校づくりに年間を通して取り組んでまいりました。「四つ葉のクローバー」に「人を大切にすること」という重点目標を掲げているのもその一つです。トラブルがあっても、児童自身が「いじめをしない」という意識を持ち続けるよう、指導と支援を続けました。

保護者にもその意図が伝わった結果かと思いますが、実はどちらの項目とも、「そう思う」と回答した保護者は、40%ほどでとても低くなっています。教職員が取り組んでいる事例をもっと発信する必要を感じています。

次年度も感染状況を冷静に判断しつつ、これまでも支えていただいた地域のパワーを生かした授業を充実させてまいります。今後も、地域や保護者、そして、児童から信頼される学校、教職員で有り続けるため、今まで以上に「オール高柳」の体制を構築していきたいと思っております。

2 課題と今後の対応 アンケートの結果から、本校の課題を分析し、今後の対策について述べたいと思います。

高柳という地域が好きである。(児童 96%)

学校教育目標をはじめとする経営方針などの情報を発信している。(保護者 91% 教職員 65%)

児童は、「高柳」という地区を意識し、好意を抱いていることがわかります。これは、自分たちが地域に支えられていることを実感していることにほかなりません。長年受け継がれている「地域」の支えが児童の回答から読み取れます。

経営方針の発信について、昨年度より9ポイント上昇しました。4月の教育課程説明会(動画配信)の他、学校だより、ホームページでの発信を続けましたが、少しでも目にとめていただける方が増えたとしたら、大変ありがたいです。

一方、教職員は発信していると言えないと感じている方々が多くいることがわかります。超多忙な日々の中で、どんな発信ができるか、発想の転換が求められていることを感じています。

高柳小学校のことが好きである。(児童 93%)

学校は、学校教育目標を意識した教育活動を行っている。(保護者 85% 教職員 82%)

児童には、「学校が好きか」という質問を投げかけてみました。昨年度より6ポイント上昇しました。「高柳」という地域が好きであるという項目と合わせて考えると、今年度の創立50周年行事によって、学校や地域を意識する機会が増えたことが原因かと考えます。児童会が企画した異学年で取り組んだウオークラリーなども実現できました。やはり、体験活動の充実感が大きな要因かと考えます。

一方で、学校教育目標を意識した教育活動という観点からの質問には、他の項目より低い評価となりました。教職員は、日々取り組む教育活動が目標実現につながるという意識をもつこと、保護者には、そんな取り組みを多様な場面で紹介することが必要と考えます。

「四つ葉のクローバー」にある四つの力が身についた。(児童 91%)

学校の重点目標である「やなぎっ子がめざす四つ葉のクローバー」を知っている。(保護者 59%)

重点目標である「四つ葉のクローバー」を意識した教育活動を行っている。(教職員 87%)

今年度、重点目標を「やなぎっ子がめざす四つ葉のクローバー」として児童に紹介し、機会あるごとに発信してきました。児童は認知できるようになりました。しかし、保護者への周知はまだ不足しています。ホームページで紹介するだけでなく、学校だよりや学年だよりの中で、周知してまいります。

3 自由記述より(保護者)

- ・今年度も学校に行く機会が減り、学校の様子がわからないとのご意見を多数いただきました。アンケートへの回答にも苦慮された様子が多く寄せられました。申し訳ありませんでした。授業参観もできる時期があったのではないかとご指摘いただきました。今後もオンライン授業参観や動画配信等を活用しながら、できるだけ児童の様子を保護者に伝えてまいります。
- ・教職員からの挨拶が返ってこなかったり、乱暴な言葉が聞こえてきたりのご指摘もいただきました。マスクをしているからこそ「笑顔の挨拶」が大事であることや、子どもの人権を保障する観点から「言葉の大切さ」などを考え、学校全体として意識を高める取り組みをしてまいります。
- ・教職員への温かい励ましや、理解をお示しいただくようなメッセージをたくさんいただきました。